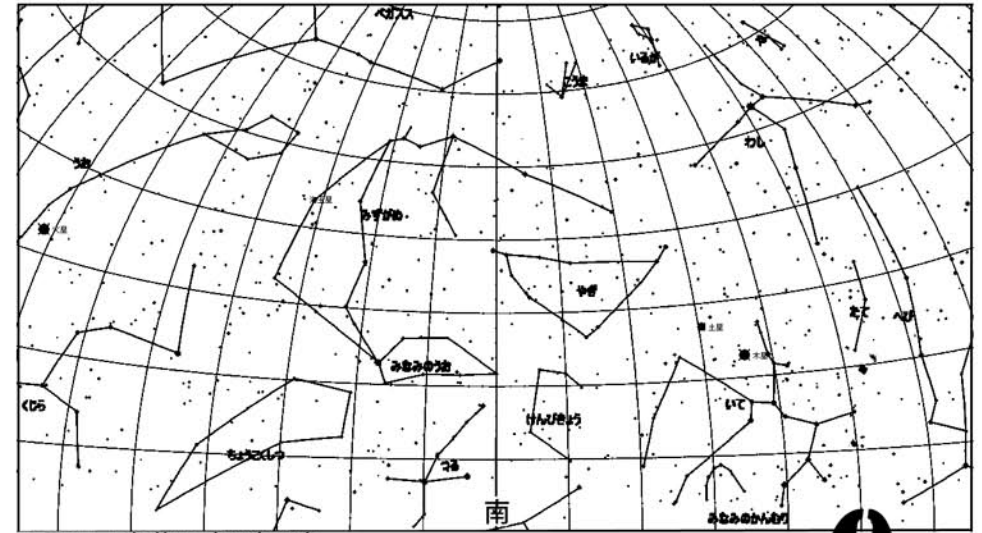


姫天だより

★今月のテーマ 中秋の名月と地球の仲間の惑星を観る会

今年の旧暦8月15日は、10月1日(木)になります。旧暦の8月15日の晩は、一般に名月、十五夜といわれ、昔からお月見の日として、親しまれてきました。名月を觀賞しながら、酒をくみかわし、詩歌や俳諧をつくり、風流をたしなむというもので、年中行事の中では、もっともみやびやかなものです。こうした風習は中国で生まれ、朝鮮・日本に伝わり、上流階級で行われていたのが、民間に伝わったものといわれています。皆さんも一緒にお月見をしませんか？

今年は月だけでなく、南の空に、木星と土星が明るく輝いています。また、東の空には、10月に向けて地球に接近中の火星も見ることが出来ます。太陽系最大の木星の縞模様、4つのガリレオ衛星。美しい環のある土星、そして赤く輝く火星も表面の様子が見られると思います。私たちと一緒に太陽系の仲間たちの姿をあなたの目で見てみませんか？



9月15日午後8時の南の空

9月号
2020

-次回の天文クラブ-

●仲秋の名月を見る会

9月26日(土)午後7時30分より
月の観察
秋の星座観察

●10月の星を見る会

10月10日(土)午後7時30分より
火星の観察
秋の星座観察

姫治地区センター
岐阜県可児市下切 1530
☎0574-62-0104

姫治天文台
<http://himeziten.yu-yake.com/>



JR太多線下切駅より徒歩13分
2020年9月1日発行

※観望会についてのお問い合わせは
姫治地区センター (62-0104) まで

★今月の星座 いるか座

9月下旬の午後8時頃に頭の上に来るこの星座は、わし座の東で3つの4等星と1つの5等星が小さなひし形を作っています。これがあるかの胴体で、小さなわりによく目につき、その形から日本では「ひしぼし」とか「ひぼし」と呼ばれています。明るい可児の町で見つけるのは大変だと思いますが、頭の上(地平高度70度)あたりを通りますから、月のない暗い晩にはその形から意外と簡単に見つけられると思います。

いるかの口にあたるγ星はオレンジ色と青緑色の対比の美しい二重星で口径5cmの望遠鏡で分離することができます。

このいるかは、海神ポセイドンの使いとされる神聖な動物です。ポセイドンはあるとき海の妖精ネレウスの娘アンフィトリテを見初めて妻にしようとしたのですが、彼女は嫌がって逃げてしまいました。そこでポセイドンはいるかを使いに出したところ、首尾よくアンフィトリテを見つけて戻るように説得したといひます。いるかはその功績を讃えられて星座に加えられたのだといひます。

また、七夕伝説では、お母さんを追いかけて天の川のほとりまでやってきた親子があまりの大河に途方に暮れていた時に、下の小さな子が言いました、この柄杓で水を汲みましょうと、3人でかわるがわる水を汲むのですが、天の川の水は少しも少なくなりません。そして終には天の川の水をくみ出そうとした柄杓が壊れた姿だといひられています。